

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------|-------|--------------------------------|---|--|------------------|--|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 世界史A | 全 | 2 | 明解世界史A (帝国書院) | 明解世界史図説 エスカリエ 十四訂版 明解世界史A ノート(帝国書院) |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 歴史的事象について関心と問題意識を持ち、意欲的に取り組むことができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | 歴史的事象を多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化に対応し客観的に判断することができる。 | | | |
| | | 資料活用 of 技能 | 様々な媒体を利用して学習に必要な資料を収集し活用できるとともに、追求し考察した結果を適切に表現できる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 世界史の基本的な事柄を、日本史との関連付けや世界史的視野に立って理解し、認識を深めることができる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | | 到達度目標 | |
| 前期 | 4月 | 1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 | 序節 人類の始まり 1節 東アジアの文明 2節 南アジアの文明 3節 東南アジアの文明 4節 西アジア・北アフリカの文明 5節 ヨーロッパの文明 6節 南北アメリカの文明 | <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の風土と文化、歴史について、理解することができる。 ・大航海時代のヨーロッパとアジア・アフリカ・アメリカとの接触・交流と、世界の一体化への動きを理解することができる。 ・市民革命や産業革命の経緯と歴史的意義を知り、自由主義・資本主義が世界に与えた影響を理解することができる。 ・産業革命の後、世界市場が形成され、帝国主義が成立する過程を理解することができる。 | | |
| | 5月 | | 7節 ユーラシアの交流圏 | | | |
| | 6月 | 2章 一体化に向かう世界 | 1節 繁栄するアジア 2節 大航海時代と新たな国家の形成 | | | |
| | 7月・9月 | 3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 | 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2節 自由主義・ナショナリズムの進展 | | | |
| 後期 | 10月 | 3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 | 3節 アジア諸国の動揺 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民革命が、その後の社会に与えた影響を理解することができる。 ・列強によって侵略されたアジア・アフリカ諸国の動きとその変革、日本の動きについて、理解することができる。 | | |
| | 11月 | | 4節 東アジアの大変動 | | | |
| | 12月 | 2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦 | 1節 現在につながる社会の形成 2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3節 “民族自決”を求めて | <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の原因や総力戦としての性格、その影響について理解することができる。 ・全体主義の出現の背景、人権の抑圧について、理解することができる。 ・第二次世界大戦の原因と結果、戦後世界への影響を理解することができる。 ・米ソの冷戦の始まりと終わりを理解し、冷戦終結後の国際社会の変化や人類の課題について考える。 | | |
| | 1月 | 2章 冷戦から地球社会へ | 4節 経済危機から第二次世界大戦へ 1節 冷たい戦争の時代 2節 冷戦終結への道のり | | | |
| | 2月 | | 3節 地球社会への歩み | | | |
| | | | | | 4節 持続可能な社会をめざして | |

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------|-------|--|--|---|---|--|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 世界史B | 全 | 4 | 新選世界史B(東京書籍) | 明解世界史図説エスカリエ 十四訂版(帝国書院) 新選世界史Bワークノート |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 歴史的事象について興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | 文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することができる。 | | | |
| | | 資料活用・技能 | 年表や世界地図など資料を活用し、その変遷や背景を読み取り、考察した結果を適切に表現できる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 世界史の大きな枠組みと流れについて、日本を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解することができる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | | 到達度目標 | |
| 前期 | 4月 | 第1部 文明と地域世界の形成 序章 地球と人類のはじまり 第1章 西アジア世界・地中海世界の形成 | ①オリエント文明の形成 ②ギリシア世界とヘレニズム文化 ③ローマ帝国と地中海世界 | | ・人類が農耕を基礎に文明を成立させたことを把握できる。 ・オリエント文明とギリシア人の活動を中心に西アジア・地中海世界の特質が把握できる。 ・ローマ帝国により地中海世界が形成されたことが理解できる。 ・西アジア・地中海の歴史を一体的に捉え、そのダイナミズムが把握できる。 | |
| | | 第2章 南アジア世界・東南アジア世界の形成 第3章 東アジア世界・内陸アジア世界の形成 | ①古代インド文明の形成 ②ヒンドゥー国家と社会の展開 ③東南アジア世界の形成 | | ・南アジア世界の形成過程が把握できる。 ・東南アジアが南アジア文明や中華文明の影響を受けながら国家を誕生させたことが把握できる。 | |
| | 6月 | 第2部 諸地域世界の交流と再編 第4章 イスラーム世界の形成と拡大 | ①イスラーム国家の成立 ②軍人政権の時代 ③アフリカ・南アジアのイスラーム化 ④イスラームの文化 | | ・イスラーム世界がユーラシアの交易ネットワークに沿って拡大した過程が把握できる。 ・イスラーム世界がヨーロッパや東アジアの文明にも影響を与えていることが把握できる。 | |
| | | 第5章 ヨーロッパ世界の形成と変動 | ①ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界 ②西ヨーロッパ世界の成立 ③ヨーロッパ世界の変動 | | ・地中海世界が解体しヨーロッパ世界が形成されていった過程が把握できる。 ・東ヨーロッパ世界と西ヨーロッパ世界の特質が理解できる。 | |
| | 7月・9月 | 第6章 内陸アジア世界と諸地域世界 | ①北方諸民族と宋 ②モンゴル帝国の興亡 ③ユーラシア諸地域の交流と再編 | | ・内陸アジア諸民族の活動がユーラシア諸地域世界の交流と再編に果たした役割が把握できる。 ・モンゴル帝国によりユーラシア全域にまたがる交易圏が形成されたことが理解できる。 | |
| | | 第3部 諸地域世界の結合と変容 第7章 アジア諸地域世界の繁栄と成熟 | ①明と清の繁栄 ②東アジア諸国の発展 ③東南アジアの大航海時代 ④イスラーム諸国家の繁栄 | | ・16世紀から18世紀にかけてアジア諸地域世界で社会の成熟期を迎えたことが理解できる。 ・この時期の日本の動向を東アジア世界の中で位置付けて理解できる。 ・東南アジアでは港市国家が発達し、東西貿易で繁栄したことが理解できる。 ・イスラーム帝国では非ムスリムに対して寛容な統治を行ったことが理解できる。 | |
| | 後期 | 10月 | 第8章 ヨーロッパの拡大と大西洋世界 | ①大航海時代 ②ルネサンス ③宗教改革 ④主権国家の成立 ⑤東方の大国 ⑥ヨーロッパ人の進出とアメリカ・アフリカ | | ・大航海時代を契機にユーラシア規模から地球規模の交流に拡大したことを理解できる。 ・16世紀から18世紀のヨーロッパで主権国家体制が築かれたことを理解できる。 ・三角貿易を扱い大西洋世界に西ヨーロッパを中心とする国際分業体制が形成されたことを理解できる。 |
| | | | 第9章 産業社会と国民国家の形成 | ①産業革命 ②アメリカ合衆国の独立 ③フランス革命とナポレオン ④ウィーン体制と1848年革命 ⑤国民国家の建設と国際関係の推移 ⑥ヨーロッパの文化 | | ・イギリス産業革命の世界的背景やその展開を通して資本主義の確立の過程を理解できる。 ・自由主義・国民主義が進展し19世紀後半にはドイツ・イタリアなどで国民国家形成が促されたことを理解できる。 ・アメリカ合衆国における西部開拓、南北戦争に至る状況、その後の発展を人種問題を含めて理解できる。 |
| | | 11月 | 第10章 世界市場の形成とアジア諸国 | ①ヨーロッパ諸国のアジア進出 ②西アジアの変動 ③南アジア・東南アジアの変動 ④東アジアの変動 | | ・ヨーロッパの進出に対するオスマン、ムガル、清、日本などアジア諸国の動揺と改革から19世紀のアジアとヨーロッパの関係を総合的に理解できる。 |
| | | | 第4部 地球世界の形成 第11章 世界の分割 第12章 二つの世界大戦 | ①世界を支配する国々 ②アジアの民族主義と国家建設 ③世界の一体化 | | ・帝国主義時代の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解できる。 ・アジア諸地域で民族意識が覚醒したことを把握できる。 |
| 12月 | | 第12章 二つの世界大戦 | ①第一次世界大戦 ②ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ③アジアの独立運動と革命 ④アメリカ合衆国の繁栄 ⑤世界恐慌と自由主義への挑戦 ⑥第二次世界大戦 | | ・二つの世界大戦の様相、社会主義・全体主義の台頭に着目し、大衆社会の出現について理解できる。 ・第二次世界大戦の持つ複合的な性格を理解できる。 | |
| | 1月・2月 | 第13章 戦後世界の形成と変容 | ①冷戦の展開と第三世界 ②平和共存と多極化 ③アメリカ経済の動揺と国際秩序の変容 ④冷戦の終結とその後の世界 ⑤21世紀を生きる私たち | | ・米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国の台頭により自由主義圏、社会主義圏、第三勢力の各陣営の結束強化と相互の対立を軸に、冷戦期の世界の動向を理解できる。 ・市場経済のグローバル化、冷戦の終結により、地球社会という相互依存の社会が到来したことを理解できる。 | |
| 終章 21世紀の課題 | | ①民族や文化のちがいをみとめながら生きる ②「青い宝石・地球」を未来にうけつぐ | | ・人種・民族問題、国際紛争・地域紛争などの国際問題に関する主題学習を通して国際協調の意義と課題を考察できる。 | | |

令和4年度 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------|------|----------------------------|---|--|---|-----------------------|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 日本史A | 全 | 2 | 高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来(第一学習社) | 写真資料館 日本史のアーカイブ(とうほう) |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 歴史的事象に関心・興味を持ち、主体的・意欲的に取り組むことができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | 歴史的事象を多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて、客観的に判断することができる。 | | | |
| | | 資料活用技能 | 日本史に関する諸資料を様々な媒体を利用して収集・活用し、考察した結果を適切に表現できる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 日本史の基本的な事柄を、世界史的な視野に基づいて理解できる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | | 到達度目標 | |
| 前 期 | 4月 | 第1部 私たちの時代と歴史 | ・私たちの時代 ・私たちの身近なところから歴史を 考えてみよう | | ・身近な生活文化や地域社会の変化などに関わる 主題を設定し、探究することができる。 ・歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方や 考え方を身に付けることができる。 | |
| | | 第2部 近現代の日本と世界 | (1)近代への胎動 | | ・江戸時代後期にたびたび外国船が来航する背景 や、外圧によって幕藩体制が揺らいでくることを理 解できる。 | |
| | 5月 | 第1章 近代国家の形成と 国際関係の推移 | (2)開国と幕末の動乱 | | ・開国以後、明治維新を経て、近代日本が急速に 形成された過程を国際的な動きと関連付けて考え ることができる。 | |
| | | | (3)近代国家の形成 | | ・新政府の方針の特徴と中央集権体制が整備され ていく過程を政治・経済の両面から理解できる。 | |
| | 6月 | | (4)国際関係の推移と近代産業の 発展 | | ・外交課題であった条約改正に向けた努力を理解 するとともに改正実現後は、日清・日露戦争を経て アジアへの侵略に向かうことについて理解できる。 ・日本では、日清・日露戦争の頃に産業革命が起こ り、産業や経済が発展を遂げるが、一方で貧富の 差などのひずみが生じ、それにともなって社会運動 が広がっていく相互関係や社会の発展がもたらす 正と負の面を理解できる。 | |
| | | | 7月 | 第2章 両大戦をめぐる国 際情勢 | (1)第一次世界大戦と日本 | |
| 9月 | | | | | | |
| 後 期 | 10月 | | (2)第二次世界大戦と日本 | | ・明治・大正の時代の移り変わりとともに国民の生 活が大きく変わったことを知り、大正デモクラシーと よばれる民主主義的な風潮や限界についても理解 できる。 ・うち続く日本経済に有効な手段を見いだせない政 界や政治が行き詰まるなかで、軍部が台頭しアジ ア侵略に向かう日本の姿を捕らえることができる。 ・文化も生活も戦時色に染まっていくことを理解で きる。 | |
| | 11月 | | | | | |
| | 12月 | | | | | |
| | 1月 | 第3章 現代の日本と世界 | (1)日本の再出発 | | ・連合国の占領政策と日本国憲法制定によって日 本が新しく生まれ変わったことや朝鮮戦争が勃発す るなか、サンフランシスコ平和条約で、日本が主権 を回復することを理解できる。 ・日本がアメリカの軍事面に依拠しつつ高度経済成 長を遂げ経済大国になったことや、その後冷戦の 終結・経済の国際化のなかで、現在まで続く政治と 経済の混迷の時代が始まったことを理解する。 | |
| | | | (2)独立後の政治と経済の発展 | | | |
| 2月 | | (3)現代の日本と世界 | | ・高度経済成長後、経済大国となった一方で政治や 経済の混迷が続く日本の現状について理解でき る。 | | |

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|------|---|---|---|--|--|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 日本史B | 全 | 4 | 新選日本史B(東京書籍) | 写真資料館 日本史のアーカイブ(とうほう) 新選日本史B ワークノート(東京書籍) |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 歴史的事象に関心・興味を持って、主体的・意欲的に取り組むことができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | 歴史的事象を多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて、客観的に判断できる。 | | | |
| | | 資料活用技能 | 日本史に関する諸資料を様々な媒体を利用して収集・活用し、考察した結果を適切に表現できる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 日本史の基本的な事柄を、世界史的な視野に基づき理解できる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 前期 | 4月 | 第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 | [1]原始社会の生活と文化 1 更新世の日本 2 縄文文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・気候や地形、動物・植生の変化などの自然環境に着目し、人々の食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習等が理解できる。 ・道具や稲作等の大陸文化の影響に着目し、集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗や墓制などの社会の変化が理解できる。 ・小国の形成から大和王権に至る過程と古墳文化を、東アジア世界との関係に注目して、多面的・多角的にとらえることができる。 | | |
| | | | [2]農耕社会の形成と大陸文化の摂取 1 弥生文化と小国家の形成 2 大和王権と古墳文化 | | | |
| | 5月 | | [3]律令国家の形成と古代文化の展開 1 飛鳥の朝廷と文化 2 律令国家の成立と白鳳文化 3 平城京と天平文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・推古朝から律令体制の成立、奈良時代・平安時代初期に至る政治の動向や統治体制の整備を、遣隋使・遣唐使などがもたらした文物・制度の影響にも着目してとらえることができる。 ・古代文化はその国際性とともに、古代国家の展開と深くかかわっていたことが理解できる。 ・東アジア世界との関係の変化、荘園の拡大、武士の台頭などに着目して、律令制の変質と摂関政治や院政の展開が理解できる。 ・遣唐使停止や地方の動向に着目し、大陸文化を消化し日本の風土や生活に適応した新しい貴族文化が進展していったことが理解できる。 | | |
| | | | [4]摂関政治と文化の和様化 1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と摂関政治 3 国風文化 | | | |
| | 6月 | 第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ | [1]中世社会の成立 1 院政と荘園 2 平氏政権の登場 3 鎌倉幕府の誕生 4 執権による政治 5 元寇と社会の変貌 6 鎌倉の仏教と文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・平氏政権成立過程やどのような特徴をもった政権であったのかが理解できる。 ・実質的な土地支配権がしだいに地頭に握られていったこと、鎌倉幕府が二元的支配からしだいに公家政権より優位に立つようになったことに着目して、東国の地方政権から全国的な政権に成長していったことを把握できる。 ・武家社会の成立や庶民の経済活動の活発化などの社会変化を背景にして、文化に新しい気運が生まれたことに気づくことができる。 ・室町幕府の成立、南北朝の動乱から戦国時代への歴史の流れを、東アジア世界との交流や日本の諸地域の動向などに着目し、世界史的視点からとらえることができる。 ・庶民の台頭、産業経済の発展や下廻りなど中世社会の多様な展開を幅広くとらえるとともに、庶民の活動が従来社会秩序を変える原動力になり得たことに気づくことができる。 ・室町文化の時期ごとの内容や構成、さらにはその時代背景を理解できる。 | | |
| | | | [2]武家社会の形成と東アジア 1 室町幕府の創設 2 倭寇と東アジアの交易 3 下廻りの社会と戦国大名 4 室町文化 | | | |
| | 7月 | 第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 | [1]ヨーロッパ文化との接触と国内統一 1 ヨーロッパ文化との接触 2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権の統一政策を幕藩体制へのつながりという観点から取り上げ、大航海時代と言われる世界史的背景にも着目して理解できる。 ・桃山文化が新興の大名や都市の豪商の精神を反映していることなど、時代的背景と関連させて、その特色について理解できる。 ・幕府と藩、農村・農民支配の特色、経済的基盤、封建的身分制度など幕藩体制の特色を、政治的・社会的な背景や役割と関連付けて理解できる。 ・鎖国政策については貿易統制、禁教という側面とともに、オランダ・中国・朝鮮・アイヌとの交易にも注目し、鎖国が社会や文化に及ぼした影響と歴史的意義について理解できる。 | | |
| | | | [2]幕藩体制の成立 1 江戸幕府と大名・朝廷 2 身分制度の確立 3 キリスト教禁止と鎖国 | | | |
| | 9月 | | | | | |
| | 後期 | 10月 | | [3]近世社会の発達と町人文化 1 幕府政治の進展 2 経済と産業の発達 3 学問の新傾向と元禄文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・文治政治に転換し安定した幕藩体制下での農業・商工業・その他の産業が、交通の発達や貨幣・金融制度の確立などと相互に関連して発展していったことが理解できる。 ・町人文化は全国的商業活動の拡大による都市発展、町人の経済的繁栄を背景に、庶民の生活意識を反映した文化であったことに気づくことができる。 ・商品経済の発展、農民層の分層など、社会構造の変化による幕藩体制動揺の過程と、社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素の形成について理解できる。 ・外からの危機と内からの危機(内憂外患)について理解できる。 | |
| [4]幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 1 幕藩体制の動揺と政治改革 2 幕藩体制の危機 3 新しい学問の形成と化政文化 | | | | | | |
| 11月 | | 第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 | [1]開国から明治維新へ 1 開国 2 幕府の滅亡 3 統一国家の成立 4 近代国家をめざして 5 殖産興業と文明開化 6 明治初期の国際情勢 | <ul style="list-style-type: none"> ・開国によって国際社会に組み込まれる中で、尊王攘夷運動や倒幕運動を経て明治維新に至る過程について、経済や社会と関連して、その意義が理解できる。 ・諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策について、欧米列強との関わりに着目して理解できる。 ・国会開設の運動から立憲体制の成立、近代国家の基盤の形成過程が理解できる。 ・国家的な課題であった条約改正の経過とその意義について、整理して把握することができる。 ・近隣諸国との条約の締結や干渉などを通して、アジア社会での日本が立ち位置を模索していく様子が理解できる。 ・藩閥政府と抑圧されながらも、国民の自由民権運動の展開を受けて立憲政治が形成されていく過程が理解できる。 ・当初の日本古来の文化を否定する態度から、世界的な文化を生み出すまでに成長した日本の近代文化を概観することができる。 | | |
| | | | [2]立憲政治の形成と国民文化 1 政府専制への批判 2 立憲政治の成立 3 新しい文化の形成 | | | |
| 12月 | | | [3]日本の近代化と東アジア 1 日清戦争と東アジアの変容 2 「中国分割」と日露戦争 3 工業化と資本主義の発達 4 近代文化の発達 | <ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争について清国の朝鮮政策やロシアの極東政策と日本の大陸政策との比較や、世界史的視野から考えることができる。 ・資本主義国家としての基礎確立の過程をまとめて、社会運動・労働運動の発生にも気づくことができる。 | | |
| 1月 | | [4]デモクラシーと第一次世界大戦 1 第一次世界大戦と日本 2 新たな国際秩序と日本への影響 3 大衆社会の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国が韓国併合や満州への勢力拡張などを通じて植民地支配を進めたことを考察するとともに、国民の対外意識の変化やアジア近隣諸国の受け止め方について理解できる。 ・第一次世界大戦とその前後の国際社会の動向に留意して、我が国の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について理解できる。 | | | |
| | | [5]激動する世界と日本 1 揺れ動く経済と中国侵略の本格化 2 日中戦争と国内体制の改編 3 太平洋戦争 | | | | |
| 2月 | | 第5章 現代の世界と日本 1 占領と国内改革 2 冷戦の開始と経済復興 3 国際社会への復帰と対米協調 4 経済の高度成長 5 石油ショックと低成長の時代 6 1970年代の国際社会と日本 7 安定成長への転換 8 新しい国際秩序と日本の課題 9 激変する世界と日本 10 停滞する日本経済と成長するアジア | <ul style="list-style-type: none"> ・対日占領政策及び戦後の民主化を進める諸改革の内容と、新しい憲法が制定される経過を把握できる。 ・サンフランシスコ平和条約の調印と日米安全保障条約の締結に着目し、占領終結と独立、新しい外交関係と安保闘争など、当時の国際情勢と国内政局について理解できる。 ・高度成長とそれに伴う新しい外交関係、国民生活の変化と経済発展に伴って表面化した社会問題について理解できる。 ・ドル危機・石油危機など世界経済の変化や国際政治の動向を踏まえながら、高度成長の終焉について理解できる。 ・冷戦の終結と激動する国際情勢、国際的経済秩序の転換の中での日本の政治・経済のあり方を考えることができる。 ・国内政治の課題とともに、地球的規模の課題と日本の役割について理解できる。 | | | |

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------|------|--|--|-----|---|---|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 地理A | 全 | 2 | 高等学校新地理A(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) | 新編フォトグラフィア地理図説2022(とうほう) 高等学校新地理Aノート |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 地理的な事象に興味・関心をもち、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題について主体的に追求、解決しようとする事ができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | さまざまな地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりに着目して、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。 | | | |
| | | 資料活用の技能 | 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 世界の人々の特色ある生活文化をもとに、それらが地理的な環境によって多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解し、国際理解を図ることの重要性について理解することができる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | | 到達度目標 | |
| 前期 | 4月 | 1部 世界の諸地域の姿と 地球的課題 1章 地球儀や地図からとら える現代世界 | 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界 | | ・情報・通信網や交通機関の発達で、世界の結びつきを強めてきたことを理解することができる。 ・地球表面を平面上に書くことで生じる矛盾を理解し、用途に応じて地図を使い分けすることができる。 ・世界では共通の利害をもった国々が互いに結びつき、連合体を形成していることが理解することができる。 ・世界的視野から見た日本の位置・領土の特色と日本の抱える領土問題を理解できる。 | |
| | 5月 | | | | | |
| | 6月 | 2章 人間生活を取り巻く環 境 | 1節 人々の生活と地形 2節 人々の生活と気候 3節 人々の生活と産業・文化 | | ・大地形の成因を理解することができる。 ・統計資料などを読み取り、地形や気候が人間生活と密接に結びついていることを理解することができる。 ・人種と民族の定義や、宗教や言語・民族の大まかな分布の特色を理解することができる。 | |
| | 7月 | | | | | |
| 9月 | | | | | | |
| 後期 | 10月 | 3章 世界の諸地域の生 活・文化 | 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アングロアメリカの生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化 | | ・世界の国や地域の自然環境と生活・文化を関連づけて理解し、その多様性や地域の特色・課題を理解することができる。 | |
| | 11月 | | | | | |
| | 12月 | 4章 地球的課題と私たち | 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題 | | ・地球的課題の出現を地域性をふまえて考察することができる。 ・現代社会の諸問題について、先進国と発展途上国でその現れ方やとらえ方が異なってくることを考察し、説明することができる。 ・日本が国際社会の中で求められる役割について考察することができる。 | |
| | 1月 | | | | | |
| | 2月 | 2部 身近な地域の課題 | 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査 | | ・地形図から標高や地図記号を読み取ることができる。 ・日本の地形や気候の特徴について、世界の国々と比べて考察することができる。 ・日本において起こり得る自然災害を知り、適切な対応方法を考察することができる。 ・日本の自然災害対策を理解し、その活用方法を理解することができる。 ・地域調査の視点や方法を知り、地域の特色を多面的・多角的に考察することができる。 ・市町村規模の地域を地誌的に捉え、その地域性や課題を考察することができる。 | |

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

| 学科 | 教科 | 科目(講座名) | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------|------------|---|--|---|--|--|
| 普通科・福祉教養科 | 地理歴史 | 地理B | 全 | 4 | 新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) | 新編フォトグラフィア地理図説2022(とうほう) 新詳地理Bノート(帝国書院) |
| 目標と評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 地理的な事象に興味・関心をもち、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題について主体的に探究しようとすることができる。 | | | |
| | | 思考・判断・表現 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、多面的に考察し、考察したことを効果的に説明することができる。 | | | |
| | | 資料活用 の技能 | 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 | | | |
| | | 知識・理解 | 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解することができる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | | 到達度目標 | |
| 前期 | 4月 | 第I部 様々な地図と地理的的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査 | 1 地図の発達 2 地図の種類とその利用 3 地理情報の地図化 1 地図の活用 2 身近な地域の調査 | | ・地図には必ずゆがみが生じていることを知り、目的・用途に応じて適切に利用することができる。 ・情報通信システムの発展による世界の結びつきと情報の地域差について理解することができる。 | |
| | | 第II部 現代世界の系統 地理的考察 1章 自然環境 | 1 世界の地形 2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題 | | ・自然環境の多様性や地域性を大観することができる。 ・プレートテクトニクス理論の観点から、大地をつくる力を理解することができる。 ・ケッペンの気候区分の観点から地域を大観することができる。 ・各気候の多様性から生まれる地域の特徴を大観することができる。 ・日本の自然について、地域ごとに大観することができる。 ・環境問題について、先進国と発展途上国のそれぞれの立場から考察することができる。 | |
| | 5月 | 2章 資源と産業 | 1 世界の農林水産業 2 食料問題 3 世界のエネルギー・鉱産資源 4 資源・エネルギー問題 5 世界の工業 6 第3次産業 7 世界の結ぶ交通・通信 8 現代世界の貿易と経済圏 | | ・食料生産について、その多様性や地域性を大観することができる。 ・世界の農業や鉱工業について、自然環境や社会環境と関連づけて大観することができる。 ・世界のエネルギー問題について、地域性を踏まえて考察することができる。 ・世界の工業の進展とその変容について、多様性や地域性を大観することができる。 ・国際的分業の進展について理解することができる。 | |
| | | 6月 | 3章 人口、村落・都市 | 1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題 | | ・集落形態や都市の多様性や地域性を理解することができる。 ・世界の都市や村落の立地を地域性を考慮して理解することができる。 ・都市・居住問題について、先進国と発展途上国の問題の現れ方の相違に注意しながら考察することができる。 |
| | 7月 | 4章 生活文化、民族・宗教 | 1 世界の衣食住 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題 | | ・衣食の観点から、世界の地域性とその画一化を理解することができる。 ・現在の世界の民族分布と宗教の特徴とその背景を読み取ることができる。 ・国家領域と国境に関して多面的・多角的に理解することができる。 ・民族問題について、その歴史的・社会的背景を理解することができる。 | |
| | 9月 | | | | | |
| | 後期 | 10月 | 第III部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 | 1 地域区分とは何か | | ・世界の国々を地誌的に捉えることができる。 ・国家統合の進展や統合について、背景や目的を考察することができる。 |
| 2章 現代世界の諸地域 | | | 1 地域の考察方法 2 東アジア 3 東南アジア | | ・中国や大韓民国について、社会や文化の相違性を日本と比べて考察することができる。 ・東南アジアの多様性について、その背景を理解することができる。 ・日本と近隣諸国との交流のあり方を考察することができる。 | |
| 11月 | | | 4 南アジア 5 西アジアと中央アジア 6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ | | ・主題図からインドの多様性を読み取り、自然環境とのかかわりを説明することができる。 ・インドの地域性について多面的・多角的に理解することができる。 ・西アジアと日本の結びつきについて理解を深めることができる。 ・アフリカの輸出鉱物のグラフから、アフリカ経済について考察することができる。 ・アフリカの地域性について、自然や歴史的背景と地域区分の視点から多面的・多角的に理解することができる。 | |
| | | 12月 | | 7 ヨーロッパ 8 ロシア 9 アンゴロアメリカ | | ・主題図から、ヨーロッパ諸国の経済格差の存在を読み取ることができる。 ・ヨーロッパの地域性について、多面的・多角的に理解することができる。 ・アメリカ合衆国について、地図や資料を手掛かりに、その地域性を多面的・多角的に理解することができる。 |
| 1月 | | | 10 ラテンアメリカ 11 オセアニア | | ・ペルーの地域性について多面的・多角的に理解できる。 ・地図や資料の活用から、オセアニアが日本から「近くて遠い」地域と言われる理由を考察することができる。 ・オセアニアの地域性や日本とのかかわりについて、歴史的背景から多面的・多角的に理解することができる。 | |
| 2月 | 3章 現代世界と日本 | 1 日本が抱える地理的な諸課題 2 日本の抱える課題の追究 | | ・現代社会の諸問題について、各地の地域的差異や国際的な取り組みの必要性を考慮し、その解決について多面的・多角的に追究することができる。 | | |